

全大教新聞

2023年1月10日

第403号

【発行所】 全国大学専任教職員組合 (略称・全大教)



【PDF版 (全面カラー)】 http://zendaikyoo.or.jp/?page_id=107
【電話】 03-6802-4250
【HP】 http://zendaikyoo.or.jp/
【所在地】 〒110-0012 東京都台東区竜泉 2-20-15 都築ビル 2階

* 組合員の購読料は組合費に含まれています (一部30円)

今月の紙面

- 2 【新年座談会】 「人文社会系の学問は役に立つ！」 続き
3 高専の課題についての取り組み
3 文科省会見 (11月29日)
3 団体交渉 (12月2日)
3 財務省要請 全大教単独 (11月28日)
3 財務省要請 4団体共同 (11月30日)

- 4 共同団体委員長「新年連帯挨拶」
・日本私立大学教職員組合連合会
・全国公立大学教職員組合連合会
・日本教職員組合
・全日本教職員組合
・日本新聞労働組合連合会
・日本医療労働組合連合会

人文社会系の学問は役に立つ！

われわれの教育研究は、発展していて、変化しているのです

市沢 哲



神戸大学人文学研究科教授
【研究分野】 日本中世史
【著書】 『日本中世公家政治史の研究』 (校倉書房 2011)、『過去を伝える、今を遺す』 (共著、山川出版社 2015) 他。

ミツヨ・ワダ・マルシアノ 博士 (文学)



京都大学文学研究科教授
【研究分野】 映画・メディア学
【著書】 『NO NUKES—(ポスト3・11) 映画の力・アートへの力』 (名古屋大学出版会 2021)、『(ポスト3・11) メディア言説再考』 (編著、法政大学出版局 2019) 他。

大浦 由美



和歌山大学観光学部教授
【研究分野】 観光学、森林経済学
【共編著等】 『大学的和歌山ガイド—こだわりの歩き方』 (昭和堂 2018)、『ここからはじめる観光学：楽しさから知的好奇心へ』 (ナカニシヤ出版 2016)。

山口 裕之



徳島大学総合科学部教授
【研究分野】 哲学
【著書】 『語源から哲学がわかる事典』 (日本実業出版社 2019)、『「みんな違ってみんないい」のか?』 (ちくまプリマー新書 2022) 他。

【山口】 今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。さて、政府の骨太方針が昨年6月に発表されたが、研究も教育も理工系、医歯薬系重視です。そういう方針に対して、われわれ人文系の研究者は、「稼げる学問重視だ」といった批判をしてしまっているのですが、よく考えてみると人文社会系も経済の役に立っているんじゃないか。例えば、出版業界は斜陽だと言われ続けていますが、前年度の売り上げは1兆7,000億円ぐらい。放送業界は4兆円近くの経済規模があります。もちろん

価値を実現し、高めることで利益を生む

【市沢】 映画やドラマ、アニメ、マンガなどの時代考証は、歴史研究の貢献の例としてすぐに思い当たりますね。自分が『ものけ姫』の勉強をしたときに気がついたのは、宮崎駿さんが歴史研究の成果を吸収して、それを跳躍的に創造性豊かな作品世界につくられたことでした。時代考証だけでなく、人々を魅了するコンテンツをつくるために必要な想像力を掻き立てる、そういう力と役割を歴史の研

究は持っています。歴史学以外の人文学についても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。歴史関連の一般書もすごい勢いで出版されています。かつてはベテランが書くものだった新書も、最近は何も研究者がどんどん書くようになっていきました。一般書によって研究成果が広く共有されることは喜ばしいことですが、自分以外の学説をこき下ろすような書き方や、「正しい知識」を授け

そのすべてを人文社会系の研究者が支えているわけではありませんが、やはり上質なコンテンツを提供するためには、人文系の研究というのは絶対に必要です。そういうことを広く世間に知ってもらおうと、今回の企画を立てました。市沢先生が日本史、大浦先生が観光、ワダ先生が映画の研究で、今回のテーマにまさしく適任ということをお願いをさせて頂きました。市沢先生が『ものけ姫』のことを書いておられたのを拝読して興味深かったので、市沢先生からお話を伺いたいと思います。

【ワダ】 映画を研究している人々の中でも、京都の映画産業についてその映画史を書くという前例はあります。使い古された言葉ですが、産・官・学と久しく唱えられていますね。映画理論や映画史を、一般的なシネマスタディーズの領域で研究してきた私としては、産・官と結び付いていくに

ロビーイングとコミュニケーションカ

【大浦】 例えば市沢先生の研究を稼げるものにする、つまり、価値を実現するのが実は私たち観光学部で期待される役割でもあります。観光の一つの特性として価値創造性、要するに、今までなんでもなかった場所が、あるストーリーに位置づけられることで突如として観光地になり、さまざま利益を生むという側面があるわけです。

【山口】 ワダ先生、京都は日本最大、世界的にも有数の観光地ですが、いかがでしょうか?
その結果、現在「デジタル映像アーカイブの未来研究会」を科研で立ち上げています。映像をデジタル化しなければならぬこの時期にこそ、研究者が産・官と結び付きながら、自分たちの研究成果をロビーイン

【市沢】 歴史的な背景を盛り込んでモノや場所のイメージを豊かにすることは、商品の価値を高め、観光に貢献しますし、まちづくりにも大きな影響を与えます。それに、自然と調和した伝統的な暮らし方や技術は、人々を幸せにする力を持っています。危険で化学的な油薬に代わる伝統的な油薬を安全な成分で再現し、みやげ物の土器を作成する人々に提供することで、彼らの生活環境を変えたという中南米での考古学の実践もあります。

グし、政府にこういう形はどうかと主体的に投げかけていくことで、最終的には社会に貢献できるのではないかと考えています。つまり、映像アーカイブ学を積極的に発展させ、大学から人材を送り込みながら、社会に役立つ学問であると提案しているところです。

【市沢】 映像アーキビストはますます重要になってくると思います。歴史関係のデータベースでは韓国の事例が面白いですが、審査を通ったクリエイターが作成した歴史に関するデジタルコンテンツのデータベースがあり、そこから映画やドラマなどの製作者が情報を引き出して、舞台セットとかをつくったりする。教育以外の目的で利用するときには利用料が払われるので、産業、文化、教育の振興に役立っていると聞いています。データベースの公開が人々の幸せを実現していくためには、利用のガイドラインや公共性と個人の権利、プライバシーなど、法学的な議論に加えて哲学的、倫理的な議論が不可欠です。まさに山口先生の出番です。(2面へつづく)